普 及 情 報

産地ぐるみの「担い手育成システム」の構築

はじめに

2005年１月から始まった新規就農講座。手作り講座が好評なのか、同じ境遇の若者に会えるのが楽しみなのか、多くの若者が講座に参加している。卒業生達は、「ハッスルファーム」という研究会を立ち上げ熱心に活動中である。南淡路農業改良普及センターの講座を通じた新規就農者指導は、４年目を迎えた。

活動内容

数年前からＵターンや結婚を機に、就農している若者が増えつつあった。このような若者は、基礎的な知識や情報ネットワークに乏しく、就農したものの思うように所得が上がらず、離農してしまうといったケースもあった。そこで、普及センターでは、このような担い手の掘り起こしだけでなく、ベテラン農家から技術の伝承をスムーズに移行できるようなシステム作りが早急かつ重要な課題ととらえ活動に取り組んでいる。

（１）新規就農講座開講のきっかけ

2004年11月、一人の大規模レタス専業農家の手紙が普及センターを動かした。娘婿が「企業を辞めて就農したい」と言い出したことがきっかけとなった。親として家の状況から、「すぐに農家に飛び込まれても困るが、息子には農業の素晴らしさや基礎的な知識を他人の口から教えて欲しい」、「今すぐにでもJAや行政を巻き込んで仕組み作りを行って欲しい。」という内容だった。

（２）講座の進め方

普及センターでは、この手紙をきっかけに９名の新規就農者や関係機関に呼びかけて、就農懇談会を開催することにした。相談の結果、①受講者の発掘は、地元を良く知る営農指導員との連携により行う、②研修の期限を１年に区切る、③基本的な知識と実践技術を中心に勉強する、④顔合わせ（情報交換）を活発にするなどの合意のもと開講することとなった。

（３）オリジナルの講座づくりに向け

ア　地元の篤農家との連携

日常の普及活動の中から、レタス、キャベツ、タマネギ栽培、溶接技術、農家生活等、地域で高い技術や先進的な考えを持つ農家を現地研修の講師に依頼し、直接、現場でないと得られない技術に触れられるようにした。

イ　ビデオ教材の作成

淡路野菜普及員会と生活担当の普及員と協力してオリジナルビデオ「農業初心者に役立つ能率の良い農作業の仕方」を作成し講座に活用した。

活動成果と波及性

新規就農者の講座開設が地域でも認知され、潜在的な担い手の掘り起こしができるようになった。また、講師となる農家との企画調整に時間をかけることで、産地ぐるみの担い手育成意識が高まり、協力体制がとりやすくなった。これまで４年間で74名の受講生が参加し、37名が専業農家として定着している。南あわじ市農業振興協議会と連携して取り組む体制ができ各種助成や組織育成等の支援が得られた。

今後の課題

今後は、個別経営をより強く支援するため、経営改善計画樹立時に同じ課題を抱える担い手をグループ化し支援を行う。また、これまでの受講生には、関係機関とも綿密に連携をとり、その後の経営支援を行う。

岩田　均（南淡路農業改良普及センター）
（問い合わせ先　電話：0799-42-0649）

図１　篤農家からトンネル管理を学ぶ

図２　結成された「ハッスルファーム」